



2019年4月25日

各 位

会 社 名 SMK株式会社
代表者名 代表取締役社長 池田 靖光
(コード番号 6798 東証第1部)
問合せ先 常務執行役員 大垣 幸平
(TEL. 03-3785-1111)

通期業績予想と実績値との差異、棚卸評価損（売上原価）及び法人税等調整額（損）の計上に関するお知らせ

2018年10月25日に公表いたしました2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）の通期業績予想と本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。

また、2019年3月期第4四半期連結会計期間（2019年1月1日～2019年3月31日）において、下記のとおり棚卸評価損（売上原価）及び法人税等調整額（損）を計上しましたのでお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期通期連結業績予想数値と実績の差異（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 59,000	百万円 △600	百万円 400	百万円 200	円 銭 30.27
今回実績（B）	57,386	△1,834	△707	△834	△126.47
増減額（B－A）	△1,613	△1,234	△1,107	△1,034	
増減率（％）	△2.7	－	－	－	
（ご参考）前期実績（2018年3月期）	59,786	485	358	△288	△43.63

(注) 当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しており、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

2. 差異の理由

2019年3月期通期連結業績につきましては、売上高は中国市場の需要停滞、セットトップボックス用の米国得意先向け新製品の立ち上げ遅れ等の影響を受け、前回予想を下回る結果となりました。営業利益は、生産性改善及び固定費削減に努めましたが、プロダクトミックスの影響、及び特に年初以降の売上高が計画を下回る一方で海外生産コストが増加したこと、加えて、下記のとおり、当社連結子会社の棚

卸評価損 7 億 4 千万円の計上により、前回予想を大幅に下回りました。経常利益につきましても営業利益の減少等により前回予想を下回りました。親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産の譲渡による特別利益 12 億 5 千 9 百万円を計上しましたが、当社及び当社子会社の繰延税金資産の一部取崩による法人税等調整額の計上等により前回予想を大幅に下回りました。

3. 棚卸評価損（売上原価）の計上の内容

当社が 2015 年 5 月に、Logomotion, s. r. o.（スロバキア）と合弁で設立した SMK-LOGOMOTION 株式会社については、これまで近距離通信事業（Near Field Communication）として microSD カードビジネスの展開を図ってまいりましたが、一部の在庫について収益性が認められないことおよび今後の microSD カードビジネスの進展が不透明であることから、棚卸評価損として 7 億 4 千万円を売上原価に計上いたしました。

4. 法人税等調整額（損）の計上の内容

当社グループは将来の課税所得を見積り、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討しました結果、2019 年 3 月期第 4 四半期連結会計期間において、当社及び当社子会社の繰延税金資産を一部取崩したことに伴う法人税等調整額 705 百万円を計上いたしました。

以 上